



人を育て 地域を創る

玉名市地域学校協働本部
事業だより第44号
令和3年5月24日

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

家庭の教えで芽を出し
学校の教えで花が咲き
世間の教えで実が成る



学校では、「朝顔の芽が出たよ！花のつぼみだよ！」「ミニトマトの花が咲いたよ！実が成ったよ！」という子供たちの声が響いている頃ではないでしょうか。拙宅の菜園でも先日、キュウリやピーマン、ズッキーニの今季初収穫ができました。「芽を出し、花が咲き、実が成る」と言えば・・・

「拝啓、ことわざにも教育の道は、家庭の教えで芽を出し、学校の教えで花が咲き、世間の教えで実が成ると申すほどにこれ候えば、学校と家庭とは、常に相一致し、互いに力を合わせ、同じ方向に相進み、小児をして世間の悪しき風習に染ましめぬように致したき事にごさ候。・・・」

明治31年（1898）年、埼玉県幡羅高等小学校が保護者に配布した「家庭心得」の「前書き」の一部を原文のまま抜粋しました。この「家庭心得」が配布されたのは123年前のこと。社会状況は大きく違っていると思いますが、家庭・学校・地域という繋がり・広がりの中で人は成長するという視点を持つことが大事であるということは今も昔も変わらないようです。「不易流行」の理念です。

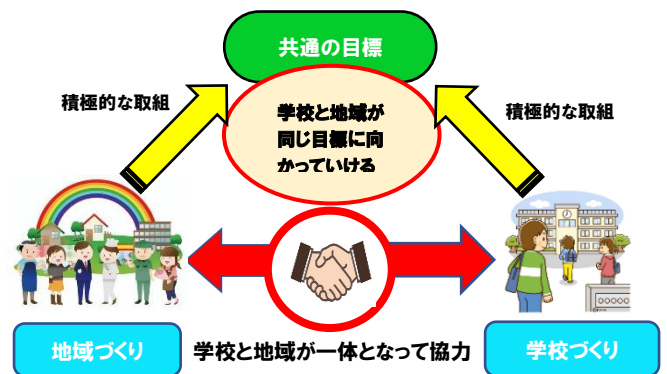
そこで今回は、次のテーマで書きます。（参考文献：「これからの学校と地域」文部科学省）

学校と地域がパートナーとなることで・・・

保護者・地域住民等も教育の当事者になることで、責任をもち、積極的に子供の教育に携わるようになる。

- ★近所に元気のない様子の子供がいても、なかなか声をかけることができない。
- ★子供のマナーについて学校へ苦情の電話がある。

- ☆積極的な声かけや自ら指導する機会が増える。
- ☆学校任せではなく、地域が学校とともに対策を考える。



保護者・地域住民等が学校運営や教育活動へ参画することで、生きがいにつながり、子供たちの学びや体験が充実。

- ★自分の経験を生かして学校や子供のサポートをしたいが、迷惑にならないか。
- ★地域の人と関わる機会が減ってきている。
- ★地域人材を活用した学習が単発で終わる。

- ☆地域の力を生かした学校運営や教育活動が実現する。
- ☆学校の中心に地域がつながり、地域の活動が活発になる。
- ☆地域の創意工夫や特性を生かすことで、学校での学びがより豊かで広がりをもつようになる。

保護者・地域住民等と学校が“顔が見える”関係となり、保護者や地域住民等の理解と協力を得た学校運営が実現。

- ★一方的な意見が数多く学校に寄せられる。
- ★学校が保護者や地域住民の様々な要望の対応に追われている。

- ☆学校の現状や方針への理解が深まり、地域が学校の応援団になる。
- ☆地域の協力により教職員が子供と向き合う時間が増える。

生徒指導、防犯、防災等でも効果が期待されます。

「つながり」は面倒くさいですか？

先日、地元紙に載っていた記事を一部抜粋します。

・・・・(省略)・・・・

P T Aの学級役員決めにも立ち会った。理由や意思を問わず、じゃんけんで決めることになった。すると生徒の父母の代理という祖母が「もし役員に決まってしまうたら息子に叱られる」と涙。訴えは認められなかったが、じゃんけんに勝って安堵する表情が印象に残っている。

P T Aに関しては近年、入会自体を敬遠するケースが全国で目立つ。負担を避けたいのか、組織への問題提起か。入会は任意であり、さまざまな理由が認められるべきだ。ただ、会員減少の問題は、P T Aだけではなく、老人会や子ども会など多くの組織の存続を危うくしている。

町内自治会もそうだ。熊本市の加入率は近年、90%近かった2006年をピークに減少傾向が続く。昨年は85%。未加入世帯の増加が止まらず、約5万世帯に及んでいる。

自治会を巡っては、16年の熊本地震で防災・減災に果たす役割が再認識され、加入が増えるとの見方もあった。ある自治会長は、日ごろは縁遠かった人々も避難所運営などに関わったことで、「地域のつながり」が広がるのでは、と期待してという。しかし、5年を経た今は「当時の雰囲気が続いているとは言えない」と頭を悩ませている。

人と人との「つながり」は一筋縄にはいかず、時に面倒くさくて、やっかいだ。それでも日々繰り返される地道な活動や、いざという時の協働は地域社会に欠かせないものだろう。世界の諸課題と向き合う「持続可能な開発目標（SDGs）」も、「パートナーシップ」が課題解決の鍵だと強調する。食わず嫌いにならず、折り合いながらつながる糸を手繰り合ってみよう。

「糸」 中島みゆき

なぜ めぐり逢うのかを
私たちは なにも知らない
いつ めぐり逢うのかを
私たちは いつも知らない

どこにいたの 生きてきたの
遠い空の下 ふたつの物語

縦の糸はあなた 横の糸は私
織りなす布は いつか誰かを
暖めうるかもしれない

なぜ 生きてゆくのかを
迷った日の跡の ささくれ
夢追いかけ走って
ころんだ日の跡の ささくれ
こんな糸が なんになるの
心許なくて ふるえてた風の中

縦の糸はあなた 横の糸は私
織りなす布は いつか誰かの
傷をかばうかもしれない

縦の糸はあなた 横の糸は私
逢うべき糸に 出逢えることを
人は 仕合わせと呼びます

アッチちゃんという5歳の女の子がいました。幼稚園の年長さんです。春の冷たい雨降りの中、友だちと2人で、幼稚園からの帰り道のことでした。いつものように、その日の幼稚園での楽しかった話をしながら歩いていました。

そのときアッチちゃんは、ある家の前に置いてあるチューリップの鉢に目をやり、突然立ち止まってしまいました。そして、そのチューリップをジーンと見つめ始めました。もう1人の友だちは、何のことやらわからず、不思議そうにアッチちゃんの姿を見ていました。

突然、アッチちゃんは、

「チューリップ、かわいそう」と言いながら泣き顔になりました。

「どうしてかわいそうなの」と、友だち聞きました。

「わたしたちは傘をさしているのに、チューリップは雨にびしょぬれになって、かわいそう。びしょぬれよ」。

そう言いながら、涙を流しているのです。

「雨が止むまで、チューリップに傘をさしてあげよう。」

そう言いながら、2人チューリップ傘をさしていたのです。